

西淀川記憶あつめ隊

Vol.14

あおぞら財団があるのは西淀川の千舟という地区です。同じ千舟に雑貨と喫茶のお店「カマタ商店」があります。喫茶を担当している鎌田智都子さんにお話を伺いました。



鎌田 智都子さん

2015年8月19日
聞き取り

と、「歌島橋の交差点は立派で、区役所やヤナセや銀行がたくさんあつたけれど、表通りから一筋中にはいったら工場ばかり。普通の家がなくて、民家と工場が一体になつているところが多かつたです。何といつても子どもがいない地域でした」と工場が多かつた印象を話してくれました。

◆窓が開けられない

生活する中で大変だったのはやはり空気のことだったようです。「引越した当時はハードのコンタクトレンズをつけていたのだけれど、自転車で買い物に行くと、道路をトラックが走つたとたん、目にゴミが入つて痛くて痛くて目が開けられない。それが毎日だからコンタクトレンズを入れることをあきら

めて、メガネにしましたね」というエピソードと、「窓が開けられないのは困りました。トラックがアスファルトを削つて、粉じんを巻き上げるものだから、拭き掃除してもすぐに部屋の中がざらざらになつてしまう。だから窓が開けられない。昔は土日かまわずトラックが多かつた。今も交通量は多いけれど、土日は少なくなつたような気がします」と府道10号線沿いの変化を見つめてきた感想を教えてくださいました。

◆発展する場所

なぜ西淀川に來たのですかとの問いには「ここが商売するの

に将来的に発展する場所つていわれたのよ」とのこと。

「JRの東西線ができると聞いた時には、ほんまに当たつたなあつて思つたわ」とお茶目に笑つてくれました。「私が引越した時は、新しく移り住んだ人が珍しい目で見られることが多くて、千舟に住んでいる人が少なかったから村みたいな場所やつたけれど、東西線の御幣島駅ができてからは、新しい人が増えたね」と、ここ10年に工場からマンションに建て替わつて町がコロッと変わつてきたとのこと

でした。

◆憩いの場所をつくる

昔は住居兼店舗で自営業をしていましたが、今はカマタ商店としてカフェになつています。「女性が一人で入れるような喫茶店がこのあたりはなくなつてね。このお店が子育て世代のお母さんたちの憩いの場になつているのを見て、あの頃欲しかった場所を作れてうれしい」とほほ笑んでくれました。工場街から住宅街に変わりつつある町ならではのエピソードだなと感じたヒアリングでした。●

カマタ商店 <http://www.kamatasyouten.com/>